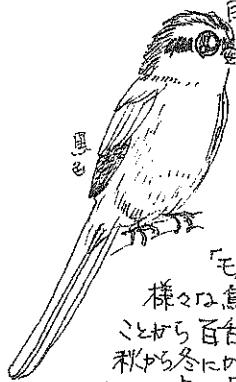


貝塚・草原・城跡・鰻？ 上谷沼の恵みとたどってみよう。

2024年10月6日 調査 小川 若



藤右衛門川にあたる上谷沼は大きな沼でした。そこは沼と生んだ地形だから、沼もまた自然の恵みに溢れています。



モズ 百舌鳥
モズ科 スズナリヤクサキ。林や河川敷の樹木で見られる。肉食で、主に昆虫や両生類を食べる。フカまたの餌物を枝に刺す「モズのはやし」もしている。

様々な鳥の鳴き真似もすることから百舌鳥の名がある。秋から冬にかけて木の上でずぶく鳴く「高鳴き」して縄張りを主張する。

前村の沼と埋めて造られた

ゴズイ 権草
ミツハウツギ科 落葉小高木 秋に真赤な実ができる。とても目立つ。実は熟すと割れ、中から黒い種が目立つ。

魚にもゴズイというのがあります。食からかきまき ヒレに食われるので、避けるかたが多い。木のゴズイは材木等には役に立たないといわれています。

藤右衛門川と上谷沼

1700年代前半、見沼が開発されたのと同じ頃、並木藤右衛門という人物が工事して上谷沼の水を抜き、新田開発をしたことから、沼の跡と流れる川を藤右衛門川と呼ぶことになった。別名 谷田川。

領の谷城と佐々木盛綱

近江の武土佐々木氏は、平治の乱で源義朝と共に戦ったが敗北、関東に落ちのび、佐々木盛綱は伊豆に落ちた源頼朝に仕えることになった。1180年頼朝の挙兵と共に行動し、石橋山の敗戦後再び源頼朝に仕え、領の谷城を築城して頼朝と共に戦う兵を募った。領の谷城周辺は、室町時代・初めには佐々木持清、戦国時代には、小田原氏家臣の領地となる。昭和30年代までは、土塁も残っていた。



ムラサキシキブ 紫式部

シソ科の多年草。花は3mmくらいの小な紫色の花で、たこ足と似る。実が重なり合う様子も重宝(しほう)といふことからこの名がある。花は初夏頃に咲く。低山や谷間の林の縁で見られる。園芸種のムラサキシキブは、枝が枝垂れる。

シモフリスズメ 霜降雀

シモフリスズメ。スズメ科。大型の蛾。幼虫は、ムラサキシキブ、クサギ、アブラノ木、モミジなどの葉を食べる。成虫は茶葉のような茶色をしている。

舟山公園の植物

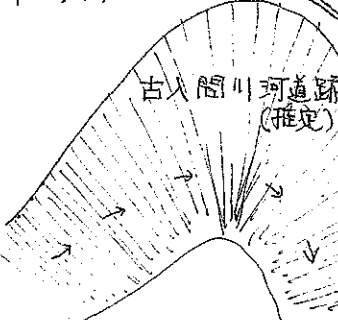
- クスギ
- ゴズイ
- トウモロコシ
- アカメガシワ
- イロハモミジ
- ヒガンバナ
- 竹
- ササ
- シデ
- フウ
- コナラ
- ガガイロ

ルリタテハ 瑠璃立羽



黒い羽の中の帯模様のとても目立つ。公園の林などで見られるようになった。幼虫は、アサギノコやアサギノコを食べる。

古入間川河道跡 (推定)



小谷場貝塚

縄文時代前期の貝塚。白地のすぐ下まで海に繋がっていた。ハマグリ、ハシガイ、カマガキ、シジミなどが見られる。



小谷場貝塚遺跡

縄文時代から弥生時代にかけの遺跡。堅穴住居や土器の遺物跡や貝塚がある。また、村をとり囲む溝も貝塚であり、弥生時代の環壕集落と推定されている。

上谷沼調整池の植物

- セイヨウアサギ
- マルバトウモロコシ
- イタダキ
- オオミズアザミ
- セイバシロコシ
- ヒガンバナ
- セイヨウアサギ
- センダングサ
- キクイモ
- エノコログサ
- チカラシバ
- ヨシ

